

高齢者の生活実態に関する調査の分析 (第4報)

学歴でとらえた諸問題

筑紫女学園短大 小川直樹

分析の視角 明治以降の伝統的なわが国の社会は、男性優位、学歴社会といった特質があり、その反映として今日の高齢者への影響もまた見逃すことはできない。本報では先の第2報でまとめた残した都府、すなわち性別と学歴別との基本的視角において分析する。これによって、高齢者の生きがい・幸せ状況の階層性もある程度把握することが出来る。

方法 高齢者の生活史を中心とした聞き取りによるボーリング調査(60ケース)を実施した。調査対象者の居住地は、福岡市、県内・近郊、施設利用者、佐世保市および松山市である。ただ、対象地域については事情によって必ずしも前年の調査地域に限定することはできなかった。38ケース、63.3%は前年調査地域から選ぶことができた。

結果および考察 1) 低学歴の女性高齢層では、夫婦・親子の相互不信のために精神的絆を得つ機能する欠落し、孤立したケースがあってその対応は緊急を要する。

2) 階層性の高い家族の中でさえも、介護機能を、誰が、何処で、いかなる理論と技術をもって果たすかという差し迫った問題がある。この点に関して、私共の家政科の科目編成に際して、種々の資料を得ることができた。

3) これまで「高齢者」概念を抽象的一般論でくくって把握する方向ではなく、具体的、個別的かつ階層的に細かく分類し、そこでの諸々のニーズを正確に把握した上で、総合的に問題解消と科学的、人権的に処理するシステムが求められる。このシステムの人的、物的および権限的構成に関して、わが国の家族問題の實質を把握した上に、諸外国における事例を研究したところから、具体化することになろう。今後、研究にゆずりたい。